

千葉経大新聞

第37号
発行
千葉経済大学
千葉市稲毛区轟町
3-59-5 (〒263-0021)
TEL.043(253)9111(代)
FAX.043(254)6600
http://www.kcu.ac.jp

平成十七年度

本学学生が活躍

習志野市商店街活性化研究プログラム事業

経営学科 助教 伊藤 匡 美

昨年度、伊藤ゼミの学生（現在四年生）十四名は、『平成十七年度習志野市商店街活性化研究プログラム事業』に取り組みました。この研究プログラム事業は習志野市の主催で、本学を含めて全七大学十二研究室（ゼミ）が参加しました。本ゼミでは、習志野市内の商店街（実叡コミュニティロー

ド商店会）を研究対象とさせていただき、ソフト事業面での活性化案を提言しました。ところで、なぜ今回のような「商店街活性化事業」が必要なのでしょう。それは、日本の商店街が置かれている現状と深い関係があります。現在、多くの商店街は危機的な状況にあります。中で

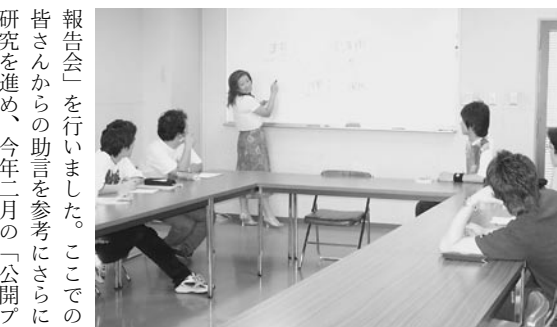
も深刻なのは、近隣型商店街（地元の人々が日用品などを徒歩や自転車で行くような商業集積）です。大型店の出店、来街者の減少、空き店舗の増加、店主の高齢化や後継者不足、個店の魅力不足、店舗の老朽化・陳腐化、駐車場不足、店舗構成の偏りなど、複合的な問題を抱えています。

商店街はまちの顔です。商店街が衰退してしまふと、まちの活力は失われます。夜のまちが真っ暗になったり、自動車に乗ることのできない住民には不便で住みにくい地域になってしまいます。少子高齢社会では、近隣の人々とのネットワークや、コンパクトに住みやすいまちづくりが求められます。

今回の事業では、本学学生がどのくらい成長しているか、潜在的な力を起してみませんか。誰しもそうですが、学生時代は自分の身近にいる同世代の人間との付き合いが大半を占めるのです。けれども今回本学の学生たちは、何度も商店街に飛び込んで歩き回ったり、関係者にインタビュー調査を行ったり、最終的には百名以上の人前で専門用語を駆使してプレゼンテーションができるようになったりと、未知の出会いや出来事を恐れず挑戦し、大活躍してくれました。

今回の事業では、本学学生がどのくらい成長しているか、潜在的な力を起してみませんか。誰しもそうですが、学生時代は自分の身近にいる同世代の人間との付き合いが大半を占めるのです。けれども今回本学の学生たちは、何度も商店街に飛び込んで歩き回ったり、関係者にインタビュー調査を行ったり、最終的には百名以上の人前で専門用語を駆使してプレゼンテーションができるようになったりと、未知の出会いや出来事を恐れず挑戦し、大活躍してくれました。

尚、オープン・キャンパスの運営には、多くの在学生の皆さんの協力を得ている。朝早くからの案内や受付から始まり、在学生とのゼミ形式懇談会や施設見学ツアーなど、在学生の皆さんがナビゲーター役になって受験生に応対している。オープン・キャンパスが円滑に運営されているのもこうした在学生の皆さんのお陰である。お礼を申しあげたい。



報告会」を行いました。ここでの皆さんからの助言を参考にさらに研究を進め、今年二月の「公開プレゼンテーション」（於・習志野市民会館）で習志野市民の皆様にその集大成となる報告を行いました。

生が皆さんが、学資の提供者であるご両親共々、ハード・ソフト両面にわたる大学のサービス内容を自分の眼で確かめたいという機会である。もし、大学のサービス内容が調べ下見に訪れて頂いた受験生やそのご両親を満足させるものでないとしたら、受験生は二度とその大学の門を叩くことはないであろう。それは、私たちが旅館に宿泊したとき、建物はみずばらしく、庭は荒れ放題、部屋は壁が崩れ、襖が破れ、従業員の接客態度が横柄で客をほったらかしにしてゲームに興じていたり、出される料理が不味いものであったら、如何に風光明媚な場所の旅館であれ、その旅館に二度と宿泊しないのと同じことである。

本学もサービス内容の改善に鋭意努めている。入試広報部の強い要望で、本年度から、総合講座という枠で、一年から四年までの講義科目のなかに就職対策講座を組み込むとともに、平成一九年度開設に向け高等学校教員養成課程（公民）を文部科学省に申請中である。さらに現在、小滝敏之学長の指示の下、受験生（とりわけ女子受験生）の皆さんにとって、本学がより魅力的な大学であるための方策を、ハード・ソフト両面にわたって入試広報部で検討中である。早ければ今年にもその一部が実現するであろう。

あろうし、将来、小滝学長の強力な指導力の下で、スマートでインテリゲンシアな学生たちが集うハイブライヴな大学づくりが、厳密なタイム・スケジュールに則って着々と進行していくことであろう。また、県下の高等学校の先生方に本学の良さを知ってもらうために、高等学校の先生方を対象に公開セミナーや英検準一級取得のための補講講座などを入試広報部主催で開催するとともに、その場を借りて小人数教育・ゼミナールの必修・丁寧な教育などといった本学の教育サービスの内容や特色を先生方に説明している。また、JRの車内広告を用いた広報活動もしている。自己革新を遂げていかなければならないであろう。

学生のアイデア 求ム

習志野市が商店街活性化

若い世代の創意工夫に富んだアイデアを商店街の振興策に取り入れよう。習志野市は活性化策の研究に参加する大学・学院研究室や学生グループを募集している。研究のテーマは「子どもや高齢などさまざまな世代が集うべき町のある商店街」。学生に商店街の現地調査を通して研究を行ってもらう。

JR津田沼駅前など 継続可能な方策を

大型店の進出などで市内 域交流が盛んになる方策の商店街は空き店舗が増え、空き店舗が増えるなど厳しい状況に置かれている。学生に商店街に「ついで」に空き店舗対策、駅前口の津田沼一丁目商店街、津田沼北口、習志野市で研究の対象エリアの一つ。



▲東京新聞（平成 17 年 4 月 11 日）

そのために、この事業は学生主体とはいえず、かなり大がかりなものでした。学生たちは、商店街関係者や「プログラム推進委員」と呼ばれるアドバイザーの皆さんの前で、八月には「第一回中間報告会」、十一月には「第二回中間



私たち伊藤ゼミでは、習志野市役所商工振興課主催の『平成十七年度習志野市商店街活性化研究プログラム事業』に参加しました。私たちは習志野市の数ある商店街の中から、実叡にある「実叡コミュニティロード商店会」を研究対象とし、商店会の活性化案について研究しました。この研究プロジェクトは、ほぼ一年がかりで進められました。

まず私たちは、「商店街に関する文献研究」「商店街の活性化策

の先行事例研究」「実叡地区の地域研究」の三つの視点から研究を始めました。次に研究が進むにつれて、「地域の歴史資源を活用した活性化策」「イベントによる

改めて振り返ってみると、このプロジェクトは自分をはじめゼミ生全員にとって非常に良い経験になりました。仲間と協同で物事をまとめていくことの大切さと難しさ、プレゼンテーションの奥深さなど、得たものの大きさはとても一言では言い尽くせません。特に、最終発表の公開プレゼンテーションでは、前日まで「パワーポイントのスライドは見やすいか」など皆で批判しあったり、先生にご指導をいただいたりしました。達成感は一ひとおいでした。

研究プログラム事業を 終えて

経営学科 四年 染谷 陽一



入試広報部長 鈴木 信雄

入試広報部長 鈴木 信雄

入試広報部長 鈴木 信雄



入試広報部長 鈴木 信雄

新任教員所感

大学で学ぶべきこと

経済学科 田邊 勝巳



私が本学に着任させて頂いて、早くも半年が過ぎました。光陰矢の如し、学成り難しとはよく言ったもので、慌しく講義の準備に追われ、日々の移ろい易さを実感する毎日です。肝心の講義ですが「できるだけ分かりやすく」をモットーに日々努力しているものの、限られた時間内では限界があります。ぜひ、気軽に授業中でも、授業が終わった後でも、授業と全然関係のない日でも質問をぶつけて下さい。注文をつけて下さい。次の授業

皆さんは社会に出たら、ようやくこれで勉強しなくて済むと思っ

ていませんか。大いなる誤解です。社会に出てからこそ、日々研鑽を積み、多種多様なことを学ばなければなりません。しかも、学

ぶべきことを全て教えてもらう訳ではありません。自分から積極的に

知っている人を探し、教えを請い、誰も知らなければ自ら調べて

勉強することが必要です。大学では成績が悪ければ単位が来ないだ

けですが、もし会社で十分な成績を上げられなければ、最悪の場合、

解雇です。これが競争社会の厳しい現実です。

確かに大学で学ぶ内容は、語学や一部の科目を除くと、直接、社

会で役立つものばかりではありません。でも、それが怠けてよい理

由にはなりません。理由は二つあります。

一、今、頑張れない人は社会に出ても頑張れない可能性が高い

今の環境に対して色々と不満を漏らし、怠けることを自己正当化

する人は、他の環境に移ったとしても同じ過ちを繰り返すだけです。

二、会社で学べない知識を学べる最後のチャンス

会社で学べることはその会社にとって必要なことです。自分が全

く興味を持ってなくとも、会社の命令で勉強を強制されることもあ

るでしょう。大学で学ぶもの一教養や広範な知識であったり、様々

な考え方、物の見方であったり、は、一朝一夕で学べないもので

す。これを効率よく取得できるのは今だけです。皆さんの人間と

しての器を大きくし、人生をより豊かにする可能性を高めることで

しょう。皆が頑張っている時、他人より頭一つ抜け出すのは大変

新任教員所感

キャリアをデザインしましょう。

経営学科 山岡 昭吉



本学に着任し、慌しく過ごしているうちに、約半年が過ぎました。本校ではキャリアデザイン論と人材開発論を担当させていただいております。キャリアデザイン論は、人生と職業のキャリアを大

学生のうちから考え、プランニングをし、そのプランを生かせるよう

に大学における学びを行うというもので、本学では前任の仙田幸子先生から始めら

れた、全国の大学でも先駆的な科目で、標準となる教科書も現在で

に必ずフィードバックし、より良い講義を提供できると思

います。さて、前期授業中、一部の皆さんの授業態度が

気になり、この場を借りて一つだけお伝えしたいと思

います。授業に対して受身の姿勢になっていませんか。

単位が必ず要だから勉強をさせられているのだという義務感で講義に望んで

いませんか。

皆さんは社会に出たら、ようやくこれで勉強しなくて済むと思

つていませんか。大いなる誤解です。社会に出てからこそ、日々研

鑽を積み、多種多様なことを学ばなければなりません。しかも、学

ぶべきことを全て教えてもらう訳ではありません。自分から積極的に

知っている人を探し、教えを請い、誰も知らなければ自ら調べて

勉強することが必要です。大学では成績が悪ければ単位が来ないだ

けですが、もし会社で十分な成績を上げられなければ、最悪の場合、

解雇です。これが競争社会の厳しい現実です。

確かに大学で学ぶ内容は、語学や一部の科目を除くと、直接、社

会で役立つものばかりではありません。でも、それが怠けてよい理

由にはなりません。理由は二つあります。

一、今、頑張れない人は社会に出ても頑張れない可能性が高い

はありませぬ。そのため、毎回、資料データ用と自分採し書き込み用のプリントを配布しています。

人材開発論は、企業経営の視点で人材を管理・育成し、企業経営に

生かしていく考えのものです。昨

年は、外資系企業に勤めていた後輩と教え子の二人の、外資系

から外資系への中途採用・正社員転職を助けてきました。業務実績を

詳細に示す業績書の表現と面接における厳しい問答、コミュニケーション能力などが、採用に大きく

影響するのを感じました。またS O xやS A Pをはじめとする企業

システムや人材開発の進展状況も知ることができました。

また環境経営格付機構で四年間、大企業の環境経営格付調査を

してきました。企業の社会的責任への要求は年々高くなってきてお

り、企業もそれに応えるために多大な努力をしてくれています。その

努力の一つに企業内教育・人材開発があり、その進展には眼を見張

るものがあります。このため、企業内で従業員教育・人材開発の恩

恵が得られる正規従業員(正社員)と得られることが少ない非正規従

業員(派遣社員・契約社員・パート・アルバイト)との教育格差が

開きつつあり、非正規従業員には企業外でのキャリア教育・自己啓

発等が求められています。大学卒業後にニート・フリーターを三年続

けたら、失業保険や労災保険などの生活保障がある正規従業員にな

れる可能性は極めて少なくなるのは、刻々と変化する社会に適合す

るための組織的訓練を受けていないことに一因があります。

ゼミナール 紹介

公共政策を学ぶ

の、二つの事柄について、総合的に学習をしています。



ようにになりました。それと同時に、興味や疑問も増えるようになりま

した。これからの事は、おそらく自分が今まで学んできた事が、実際に社会の中では、どの様に活用されているのだろうかという、好奇心によるものだと思います。また、この好奇心は、私に、より一層の教養を身に付けさせてくれました。

今泉ゼミ

経済学科 三年 齊藤 淳

本ゼミナールでは、広く様々な分野が存在する経済に関する学問の中でも「政府の動き方について」や、それに関連している事柄を取り上げている「公共経済学」と、公共経済学においての、金融的

な事柄を取り上げている「財政学」

また、本ゼミナールでは、四年

本ゼミナールでは、広く様々な分野が存在する経済に関する学問の中でも「政府の動き方について」や、それに関連している事柄を取り上げている「公共経済学」と、公共経済学においての、金融的な事柄を取り上げている「財政学」

また、本ゼミナールでは、四年

次に、大学で学んできたことの成

果として、論文を作成することになっ

「何を題材にするか」という事を

キャリアセンターの支援プログラム

9月1日から、就職課がキャリアセンターにかわりました。キャリアセンターでは、入学から卒業まで教務部門とも連携しながら段階的・体系的にキャリア形成を支援します。

◆キャリアセンターで行っているものは下記のとおりです。

1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア形成支援		就職支援	個別就職支援
キャリアガイダンス (年4回実施)		就職ガイダンス (4・7・10・1月の年4回実施)	個別相談
学生生活の目標を設定しよう!	学生生活を見直し、目標を再設定しよう!	就職模擬試験 (4月と10月の年2回実施。無料)	求人情報の提供
自己の能力や価値を理解し自分を良く知ろう!	自分の価値を明確にしてみよう!	女子学生向けセミナー「メイクや服装について」	履歴書添削
自分の価値を高める自己啓発方法を学んでみよう	卒業後の進路マネジメントを行ってみよう!	マナー講座「マナー&エチケット全般について」	模擬面接
自分の進路デザインを描いてみよう!	進路マネジメントを具体化してみよう!	自己分析講座「自分の魅力を見出し自己PRを作成」	
		履歴書対策講座「書き方の基本・魅力的な書き方」	
		面接試験対策講座「面接の種類やポイント、模擬面接」	
		OBOG企業セミナー (12/2(土) 幕張メッセ)	
		学内会社説明会 (2月中旬学生ホール)	
		企業の採用活動の早期化を受けて、早い時期から就職に対する意識が高まるよう、就職支援行事を組み立てています。	
		公務員試験ガイダンス (年2回実施)	
		【有料講座】	
		公務員試験対策講座 (2月と8月の2回実施)	
		民間企業就職試験対策講座 (8月と12月の2回実施)	

◆授業科目

1年次	2年次	3年次
キャリアデザイン I	インターンシップ I	インターンシップ II
		キャリアデザイン II
		キャリアデザイン III
		千葉の経済
		資格取得講座 I (販売士)
		資格取得講座 II (簿記)

父母の会報

父母の会 会長 鈴木 正美



この度、父母の会会長に就任致しました鈴木正美です。どうか宜しくお願い申し上げます。会員の皆様方におかれましては、ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より父母の会活動に多大なご理解とご協力賜り心より感謝申し上げます。今後、千葉経済大学の大きな発展と父母の会のますますの充実の為、皆様方の温かいご支援心より期待致しております。どうか宜しくお願い申し上げます。

地域懇談会報告

夏季休暇中の恒例行事として定着した父母の会主催の地域懇談会が八月二十六日(土)に千葉(本学)で開催されました。父母の会からは、鈴木正美会長と鈴木信枝前会長が共に出席されました。今年で十七年目の開催を迎えた懇談会は、昨年まで千葉と東京の二地区で開催し、特に、東京会場は、千葉地域外から出席されるこ



地域懇談会は、日頃大学に來れないご父母の方々の相互の親睦を深めるとともに、学生が通っている大学を知っていただく機会を設けるために開催されています。ご父母の方々に直接お会いするこの機会をとらえて、大学の近況報告を行っています。また、ご父母と教員の個別面談が行われています。

個別面談では七月に実施された前期定期試験の結果をもとに、成績を絶やす事無くますますの発展の為に全面協力させて頂く所存です。どうか皆様のご協力ご理解宜しくお願い致します。

平成十八年度定期総会は、平成十八年五月十三日(土)出席会員四十四名、委任状提出会員四十七名、計四十一名、教職員七名の出席により、午後三時三十分から一号館二〇八教室で開催されました。

定期総会報告

議事概要は、次のとおりです。
第一号議案
【平成十七年度決算について】
安藤監事から、監査結果の報告が行われ、原案どおり承認されました。

第二号議案
【平成十八年度予算案について】
別掲予算案のとおり可決されました。

第三号議案
【役員選任について】
別掲のとおり、役員が決定されました。

父母の会役員

- 平成十八年度の父母の会役員は、次の方々です。
- 会長 鈴木 正美(新任)
 - 副会長 鈴木 信枝(新任)
 - 理事(再任) 原 正仁
 - 理事(再任) 岩井智恵子 野中 敏男
 - 松本 智子 椎名 一夫
 - 新井田 功 渡辺 葉子
 - 櫻井加代子 島津 敬
 - 長谷川光則 箕輪 文子
 - 吉橋かおる 榎本 礼子
 - 片野美恵子 菊池 武志
- 顧問 山田 一郎

監事 再任 三三名

新任 一四名

以上理事(会長・副会長含む)

平成18年度 父母の会予算

収入の部				支出の部			
科目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	科目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減
会費収入	23,240	23,200	40	会議費	600	800	△200
受取利息	0	1	△1	会報・名簿発行費	1,000	1,000	0
雑収入	0	0	0	地域活動費	1,000	1,000	0
繰越金	9,831	8,008	1,823	行事後援費	2,500	2,500	0
				クラブ活動助成費	5,800	6,300	△500
				就職活動費	3,800	3,600	200
				施設設備整備費	800	800	0
				修繕費	400	400	0
				慶弔費	400	400	0
				事務費	250	250	0
				消耗品費	130	130	0
				通信費	1,000	1,130	△130
				旅費交通費	700	700	0
				賃金謝礼費	30	30	0
				雑費	10	0	10
				施設充実積立金	10,000	7,000	3,000
				予備費	4,651	5,169	△518
収入の部合計	33,071	31,209	1,862	支出の部合計	33,071	31,209	1,862

(注) 予算の執行上必要がある場合は、会長は理事会に諮って、支出の部の経費の金額を相互に流用することができる。

前年度末 定期預金残高	本年度中増減高			本年度末 定期預金残高
	一般会計より繰入	受取利息	支出額	
16,810	10,000	1	0	26,811

(注) 施設充実積立金の取り崩しについては、会長は理事会に諮って決定し、次回総会に報告するものとする。



今年の出席者は、「友人同士での参加」「同窓生同士が結婚し、ご夫婦揃っての参加」「お子様連れでの参加」と多岐にわたっていました。そのせいか定期総会・懇親パーティーはとも和やかでアットホームな雰囲気が進んでいました。

総会では、「平成十七年度決算」「平成十八年度予算」「役員選任」などについて審議されました。

懇親パーティーでは、安東誠一学部長からのご挨拶をはじめ、退職された飯田良明元同窓会顧問、私達同窓生が大変お世話になった榎谷惟光元就職室長からご挨拶をいただきました。また、会場は退職された教職員、現役である教職員の出席も多数あり、会場内は

平成18年度 同窓会定期総会報告

同窓会定期総会報告

過去最多七十名を超えるパーティーとなりました



梅雨も明けきらぬ平成十八年七月二十九日(土)、今年も毎年恒例であります同窓会定期総会・懇親パーティーが、千葉市内の三井ガーデンホテルにて開催されました。

開催にあたって、同窓会事務局が一番心配していること。それは、当日どれくらい同窓生が会場に足を運んでくださるかに尽きますが、今年は、過去最多の七十名を超える盛大なパーティーとなりました。

なつかしさで一杯の雰囲気にも包まれていました。

また、本学在学生からも、校友会活動や大学祭における準備の進捗状況、同窓会より援助金の支給を受けた課外活動団体の学生からは、クラブでの活動状況などが報告されました。

パーティー開始後一時間おまると、おいしい料理に加え、お酒も回り、テーブルのあちらこちらから笑い声が絶えず聞こえてきました。なつかしい学生時代の思い出話や、仕事のこと、家庭のことなど話しに花が咲いていました。

例年ですと、盛り上がり過ぎてビールを迎えたところで中締めに入るのでありますが、同窓会事務局も今年は一肌脱ぎ、より一層の盛り上がりを目指し、現在テレビなどで活躍しているマジシャンの「JUNY」を企画していきたくと考えております。

来年も、多くの同窓生の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。皆さんお誘い合わせの上、出席いただけるようよろしくお願い申し上げます。

遅くまで語り明かしていたのではないのでしょうか。

同窓会事務局では、今後も引き続き同窓生の皆さんに楽しんでいただけるような懇親パーティーを企画していきたくと考えております。

来年も、多くの同窓生の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。皆さんお誘い合わせの上、出席いただけるようよろしくお願い申し上げます。

それでは、同窓会定期総会での議決事項について報告いたします。

第一号議案
平成十七年度決算について
①卒業記念品の贈呈
②卒業謝恩会の開催
③クラブ・大学祭等への援助
④会員への大学新聞等の送付

以上が本学同窓会の主な事業内容で、これらを卒業生より30,000円の終身会費をいただき運営しております。平成十七年度の決算については、

△収入の部▽
28,294,445円

△支出の部▽
22,101,115円

△次年度繰越金▽
6,193,330円

以上を説明・報告ののち承認されました。

第二号議案
平成十八年度予算について
前述の①④の事業内容を中心例年どおりの運営を行っていく予定です。詳細な予算案につきましては、異議無く了承されました。

第三号議案
役員選任について



ご存知でしたか？

- ◇同窓会定期総会は毎年7月最終土曜日に開催されています。
- ◇会費は無料となっています。
- ◇ご夫婦、ご家族、お子様連れの出席を歓迎しています。

今年三月に卒業した第十五期生から四名の新役員を迎え、役員は総勢で七十名となりました。また、新役員より森 真弓さんを副会長として推薦し、賛否をはかったところ異議なく承認されました。

第四号議案
その他
同窓会より、硬式野球部をはじめ申請のあった課外活動団体に対し、交通費補助金が交付されました。

同窓会定期総会は懇親パーティーです

「定期総会」という言葉を聞くと堅苦しいイメージがありますが、同窓会事務局から、同窓会における1年間の会計報告・活動報告を少し聞いただけです。

あとは、おいしい料理を食べながら、同窓生と本学教職員、在学生が語り合う「懇親パーティー」が中心となります。

在学生からは、校友会執行部、大学祭実行委員会、各課外活動団体などの学生が母校の様子を皆さんに報告しに来ています。

第19回千葉経済大学祭開催

同窓生には受付にて、記念品を配布します！
大学祭にぜひ足を運んでみてください。

平成18年10月28日(土) 10:00~16:00
10月29日(日) 10:00~16:00

大学祭も年々活気づいたものになってきています。また、大学も以前と比べ、だいぶ生まれ変わってきています。

同窓会では、記念品(各日先着50名様、受付にて本人確認のうえ配布します。)を用意し、同窓生の皆さんのお越しをお待ちしております。

1号館1階109教室には同窓会休憩室を設けますので是非ご利用ください。

同窓会スペースメニュー実施

本同窓会では、会員相互の交流や在学生の生活向上のための様々なサポートを実施しています。おもな在学生向けのサポートとしては、エステリアへの大画面ディスプレイ(四基)の設置や二階談話スペースへの雑誌の設置などを行ってきました。

これらに加えて今回新しくスタートしたのが「同窓会スペースメニュー」です。

これは、年間で何度か(不定期)学生食堂に依頼し、定食(四五〇円)に通常その金額では提供できないようなスペースメニューを加えてもらう企画で、学生サービスと同窓会活動の周知を目的としています。

すでにこの四月からステーキ定食(四月)ジャンボエビフライ定食(五月)うな丼定食(七月)と実施しており、全て完売になる好評ぶりです。

スペースメニュー提供時には、マクドナルドのようにト

レーにシートをはさみ同窓会通信と題して、同窓会の活動を紹介する新聞を発行しています。

在学生の皆さんにはおいしい食事を楽しんでもらうとともに、皆さんが卒業後入会する同窓会の活動を知ってもらおう機会となればと考えています。

また、スペースメニュー実施の情報は大学ホームページにも掲載いたしますので、チェックしていただき、卒業後大学に来る機会が少ない同窓生の皆さんの大学に来るきっかけとして活かしてもらえれば幸いです。



交通安全講習会を受講して

経済学科 四年 蓑田真吾

私は、この度、硬式野球部に所属しているため、部員及び、道具の運搬などの目的から、ワゴン車の講習を受講しました。そして、この講習から様々なことを学びました。その中から心に深く残った三つの感想があります。



まず、一点目は、ワゴン車の特性です。私は、自宅においてはセダンタイプの車に乗っていましたが、この対極する車の形に初めて講習を受けることは、「カーブの際の減速の重要性」です。今回お世話になった勝又教習所では、この危険性を実際に目の前で体験させてもらい、以前から多少の知識はありましたが、改めて痛感しました。



二点目は、「発炎筒の使用法」です。私が、この年に一回のワゴン車講習を受講する楽しみの一として、この発炎筒の使用があります。車内であっても使い方が解らなければ、意味がありません。使用方法については、この場では割愛しますが、地方へ遠征に行き、思わぬ事故や故障に遭遇したとき、または、事故を発見したとき、

携帯電話が圏外という状況は考えられます。私達が普段お世話になっているワゴン車内は禁煙です。よって火もありませんが、発炎筒は火がなくても使用することが出来るため、大いに活躍してくれることと思います。教官の方のお話では、二本積んでおくことが望ましいとのことでした。

三点目は、「安全の再確認とだるう運転の徹底」です。このだるう運転とは、例を挙げると、右折の際に、もう直進車は来ないだろうではなく、まだ直進車は来るだ

ろう。また、日が暮れ、細い路地を通る際に歩行者はいないだろうではなく、歩行者はいるだろう。よって安全を確認して通行しようという考えです。同じだろうでも、大きな違いです。この考え方は、学校を卒業して、ワゴン車に乗る機会が失われても大事なことです。最後に、私が運転するワ

ゴン車には、私を含めた八名の尊い命を預かっていること、試合で、選手全員が使用する野球道具を積んでいます。私が事故を起こせば、野球の試合ができなくなることも同時に八名の尊い命が失われます。このことの重大さを常に言い聞かせ、これからの運転に繋げて参ります。

八月八日午前五時半。日本一の山富士の山頂に、経済大学の校旗が掲げられた。

トラーベル研究会(通称トラー研)は、部員が一年生だけの部活です。学生の間にしかできない経験をすることを目標に活動しています。今回初の遠征では、部員の誰も経験したことのない登山に、それも日本一の山富士に登ることになりました。

八月七日午前六時半、西千葉駅に集合し、富士山へ。渋滞に合いながらも九時半に河口湖インターに着き、ここで四つある登山道の内、今回登る河口湖口と須走り朽木の二つのグループに別れます。自分のグループは登山バスで五合目まで行き、そこから登山の開始です。ですが普段登り慣れない人が急に登ると高山病に掛かるので、体を慣らすために一時間ほど休憩。お昼を回った

トレーニングルーム講習会を受講して

経済学科 四年 松本 優

トレーニングルーム講習会は、専門の外部講師を招いて行われ、講習会に参加していた受講生は三十人ほどでした。前半は講義形式、後半はトレーニング器具を用いて説明を受けました。

私は現在、毎日トレーニングルームに通い体を鍛えています。トレーニングルームに通い始めたきっかけは、体を鍛えるためというの大きな理由ですが、四年生になると授業も減り、週に二、三日ぐらいしか学校に来なくなつたため、暇を持て余すようになってしまったから、というのも理由の一つです。

私のトレーニングの日は、エアロバイクを二十五分程度こぎ、それから腹筋、大腿筋、上腕筋の順に鍛え、これを毎回二セットずつ行い、大体二時間くらい汗を流しています。

最初、講習会を受けた直後は「明日も頑張ろう」という意欲を持つようになり始めました。トレーニングを始めて二カ月ほど経過しましたが、今ではトレーニングルームに行くのが楽しくて仕方ありません。学生の皆さんにも、もっとトレーニングルームを利用してもらえたら、私もとてもうれしいです。

入學して間もなく、一泊二日のオリエンテーションキャンプが行われました。前日の健康診断で仲間になった友人とも別々のグループになってしまい、最初は全く知り合いのいない中でこのキャンプに不安が込み上げてきました。しかし、事前に行われた説明会によって新しく友人も出来、少しずつキャンプに行くことが楽しくなってきました。

行きのバスの中ではサークルや同好会紹介のビデオを見ることができました。新しく出来た友人と相談しながら、どのサークルに入ろうか、とビデオを参考にしながら前もって考える機会が持て、とても役に立ったと思います。

一日目の目的地である牧場に到着し、バターとソーセイジ作りに参加しました。

ホテルでは夕食後にサークルや同好会の方の説明を実際に聞くことができ、興味のあるサークルの先輩とも仲良くなれ、とても貴重な時間が持てたと思います。また、女子学生限定の広場も開いて頂き、人見知りをする私は初対面の人と緊張しながら話しかけていました。ですが今思うと、この機会があったからこそ皆と仲良くなれたので、本当に良かったと思います。

思い出いっぱい オリエンテーション キャンプ

経済学部1年 丸山由美子



加しました。バターは採ったばかりの新鮮な牛乳に塩を加え、一目散に振るだけなのですが、何故か私達のグループだけがバターにならず、居残りをしながら必死に振り続けていました。最後にやっとの思いでバターが出来上がり、頑張って作ったバターとソーセイジは今までない程、美味しかったです。

ホテルでは夕食後にサークルや同好会の方の説明を実際に聞くことができ、興味のあるサークルの先輩とも仲良くなれ、とても貴重な時間が持てたと思います。また、女子学生限定の広場も開いて頂き、人見知りをする私は初対面の人と緊張しながら話しかけていました。ですが今思うと、この機会があったからこそ皆と仲良くなれたので、本当に良かったと思います。

こうして富士山登山を体験してきましたが、来年の夏は南の島に行く予定です。入部は常時受け付けております。興味ある方は部室を訪ねてみてください。

その後山小屋に泊まり、メンバーみんなで高山病にかかりながら(約一名を除き)、無事御来光を拝み下山してきました。全員が登山初体験の中で誰もリタイアせず制覇できたことが一番よかったと思います。

富士山山頂に校旗掲揚

トラーベル研究会

トラーベル研究会(通称トラー研)は、部員が一年生だけの部活です。学生の間にしかできない経験をすることを目標に活動しています。今回初の遠征では、部員の誰も経験したことのない登山に、それも日本一の山富士に登ることになりました。

八月七日午前六時半、西千葉駅に集合し、富士山へ。渋滞に合いながらも九時半に河口湖インターに着き、ここで四つある登山道の内、今回登る河口湖口と須走り朽木の二つのグループに別れます。自分のグループは登山バスで五合目まで行き、そこから登山の開始です。ですが普段登り慣れない人が急に登ると高山病に掛かるので、体を慣らすために一時間ほど休憩。お昼を回った

八合目まではほとんどなかった風が急に強くなり上着無しではいられません(約一名を除き)。八合目からは一段と傾斜がきつくなり、メンバーの体力も精神力も尽きようとしていたその時、後から登ってきたおじいさんに「あそこが頂上だよ」と言われ自分たちが見たのは九合目だと思っていた山小屋でした。河口湖、須走り口の登山道には九合目がないようです。おじいさんの言葉に元気を取り戻したメンバーは颯爽と頂上へ

とこで登山開始。須走り口のグループもほぼ同時に山頂へ。五合目からは二十分ほど緩やかな道を登ったところで六合目に着きました。ですがここからが本番。傾斜が徐々にきつくなり、上を見れば果てしなく続く九十九折の山道。登ること四十分、二つ目の山小屋『花小屋』に到着。ここからは十分おきに山小屋に着きます。登り始めてから約四時間八合目の山小屋『トモエ』につきます。ここはもう一方の須走りグループと合流することができ、待つこと三十分須走りグループと合流しました。八合目まではほとんどなかった風が急に強くなり上着無しではいられません(約一名を除き)。無事御来光を拝み下山してきました。全員が登山初体験の中で誰もリタイアせず制覇できたことが一番よかったと思います。

クワンス合宿

硬式野球部

私達硬式野球部は、今回八月十四日・十六日にかけて三日間の夏季合宿を行いました。目的は、秋季リーグ戦の優勝と一部昇格を果たすため、チームの結束を高めるとともに、個人のレベルアップを図るためです。また新チームとして日が浅く、若いチームなので内容の濃い三日間となりました。

一日目は成東高校の公式球場同様のグラウンドで午前中は連携プレーを中心とした守備練習、午後からは打撃練習をメインにしてメニューを組みました。普段と違うことは、より実践を考えた練習を行い、特に内外野手の連携の正確さを求め、失敗した場合はその場で話し合い、失敗を繰り返さないように何度も確認をしました。夜間は室内練習場で打撃練習の打ちを行い、ここではひたすらにバットを振り、スイングスピー

ドの向上を目指しました。練習後には、全員でミーティングを行い、一日の反省を話し合いました。また、この場では、普段は遠慮して言えないことも話し合うことができ、自分やチームの欠点を認めることもできました。

三日目は、前日の夜から降っていた雨の影響でグラウンドを使うことができず、全員で基本に戻り、振ること、投げることを、走ることを徹底的に練習しました。最後は全員で合宿の反省を話し合い三日間の合宿を終了しました。



慣れてきました。少しずつ効果も出始めました。体が引き締まり、「明日も頑張ろう」という意欲を持つようになり始めました。トレーニングを始めて二カ月ほど経過しましたが、今ではトレーニングルームに行くのが楽しくて仕方ありません。学生の皆さんにも、もっとトレーニングルームを利用してもらえたら、私もとてもうれしいです。

三日間の合宿を終え、非常に実りのある合宿だったと思います。特に練習の最中でも納得いくまで話し合い、一つ一つのプレーの完成度を少しずつ上げていけたことは、今回だけではなく、これからの役に立っていかれると思います。合宿だけでなく、普段の練習も含め、この夏の経験を生かして、二季連続で逃してしまつた一部昇格を、今回は達成できるような「必達」の心構えで秋季リーグ戦に望みたいと思います。



三日間の合宿を終え、非常に実りのある合宿だったと思います。特に練習の最中でも納得いくまで話し合い、一つ一つのプレーの完成度を少しずつ上げていけたことは、今回だけではなく、これからの役に立っていかれると思います。合宿だけでなく、普段の練習も含め、この夏の経験を生かして、二季連続で逃してしまつた一部昇格を、今回は達成できるような「必達」の心構えで秋季リーグ戦に望みたいと思います。

三日間の合宿を終え、非常に実りのある合宿だったと思います。特に練習の最中でも納得いくまで話し合い、一つ一つのプレーの完成度を少しずつ上げていけたことは、今回だけではなく、これからの役に立っていかれると思います。合宿だけでなく、普段の練習も含め、この夏の経験を生かして、二季連続で逃してしまつた一部昇格を、今回は達成できるような「必達」の心構えで秋季リーグ戦に望みたいと思います。

平成19年度入試案内

平成19年度入試のなかで、これから受験できる入試日程についてご紹介いたします。知り合いの方で受験希望者がいらっしゃいましたら、ご案内していただければ幸いです。

本学では「学部一括入試」を実施しておりますので、学科の選択は1年次の修了時となります。募集要項等が必要な方は、入試広報センターまでご連絡ください。

■経済学部（経済学科・経営学科） 総定員 250名

【AO入試（C日程）】募集人員：50名（A日程、B日程を含む）

本学を第1志望とし、向学心に長け、本学は「良識と創意」に基づき真摯に経済学・経営学を学ぶ意思のある者を募集します。（A日程・B日程は実施済み。）

区分	出願期間	選考日	可否通知発送日
AO入試（C日程）	平成18年12月6日（水）～12月20日（水）	12月23日（土）	12月25日（月）
	募集要項に記載された課題（3問のうち1問選択）を出願書類と共に提出します。		本人宛に可否の結果を通知します。入学手続締切日：平成19年1月10日（水）

【指定校推薦入試】【附属校推薦入試】試験日：平成18年11月3日（金）

【公募制推薦入試】募集人員：20名

出願期間	試験日	可否通知発送	入学手続締切日	選考方法	評定平均値2.7以上、学校長、学級担任クラブ顧問等による推薦
平成18年11月9日（木）～11月20日（月）	11月23日（木）	11月25日（土）	12月8日（金）	小論文、面接	

【社会人入試（春季選抜）】募集人員：若干名

出願期間	試験日	可否通知発送	入学手続締切日	選考方法	平成19年4月1日現在で満30歳以上の方が出願できます。
平成19年2月19日（月）～2月21日（水）	2月24日（土）	2月27日（火）	3月12日（月）	小論文、面接	

【一般入試】募集人員：A日程75名、B日程10名、C日程5名

入試区分	一般入試（A日程）	入試区分	一般入試（B日程）	一般入試（C日程）
出願期間	郵送受付：平成19年1月9日（火）～2月2日（金）（当日消印有効） 窓口受付：平成19年2月3日（土）～2月5日（月）（土曜午後、日曜を除く）	出願期間	郵送受付：平成19年2月19日（月）～2月23日（金）（当日消印有効） 窓口受付：平成19年2月24日（土）～2月26日（月）（土曜午後、日曜を除く）	郵送受付：平成19年3月5日（月）～3月9日（金）（当日消印有効）
試験日	平成19年2月7日（水）、8日（木）	試験日	平成19年2月28日（水）	平成19年3月14日（水）
試験場	本学	試験場	本学	本学
可否通知発送日	平成19年2月10日（土）	可否通知発送日	平成19年3月1日（木）	平成19年3月15日（木）
入学手続締切日	平成19年2月22日（木）	入学手続締切日	平成19年3月12日（月）	平成19年3月22日（木）
試験科目	〔3科目試験〕 ◎必須（2科目） 「英語I、英語II、リーディング、ライティング」〔国語総合、国語表現I ただし古文、漢文を除く〕 ◎選択（1科目） 「日本史B」、「世界史B」、「政治・経済」、「数学I、数学II、数学A（平面図形を除く）」、「簿記、会計」、「情報B」	試験科目	〔1科目試験+面接〕 ◎選択（1科目） 「英語I、英語II、リーディング、ライティング」〔国語総合、国語表現I ただし古文、漢文を除く〕、「数学I、数学II、数学A（平面図形を除く）」 ◎面接	
備考	試験日を自由に選択できます。また本学を強く希望する場合は2日間とも受験することができます。	備考	選択科目は出願時に申告していただきます。	

■大学院（春季選抜）（経済学研究科経済学専攻修士課程） 定員：10名（秋季選抜も含む）

出願期間	試験日	可否通知発送	入学手続締切日	選考方法	小論文は経済・経営・政策研究または会計・税務に関する知識を問う課題。
平成19年2月19日（月）～2月21日（水）	2月24日（土）	2月27日（火）	3月12日（月）	小論文、口述	

平成17年度 財務情報 学校法人 千葉経済学園

平成17年度における財務状況を次のとおりご報告いたします。

1 資金収支計算書（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	2,845,775	人件費支出	2,703,344
手数料収入	70,332	教育研究経費支出	686,599
寄付金収入	30,496	管理経費支出	230,737
補助金収入	812,209	借入金等利息支出	32,661
資産運用収入	27,320	借入金等返済支出	75,600
資産売却収入	72,153	施設関係支出	2,480,488
事業収入	28,212	設備関係支出	243,547
雑収入	140,532	資産運用支出	813,168
借入金等収入	300,000	その他の支出	138,019
前受金収入	771,145	資金支出調整勘定	△ 41,831
その他の収入	1,348,841		
資金収入調整勘定	△ 1,001,135		
前年度繰越支払資金	3,698,367	次年度繰越支払資金	1,781,915
収入の部合計	9,144,248	支出の部合計	9,144,248

2 消費収支計算書（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：千円）

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	2,845,775	人件費	2,678,371
手数料	70,332	教育研究経費	903,478
寄付金	60,128	管理経費	239,541
補助金	812,209	借入金等利息	32,661
資産運用収入	26,836	資産処分差額	117,589
資産売却差額	2,153		
事業収入	28,212	消費支出の部合計	3,971,639
雑収入	140,534	当年度消費支出超過額	
帰属収入合計	3,986,180	当年度消費収入超過額	9,737
基本金組入額合計	△ 4,804	前年度繰越消費支出超過額	1,304,068
消費収入の部合計	3,981,376	翌年度繰越消費支出超過額	1,294,330

3 貸借対照表（平成18年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	決算	科目	決算
固定資産	15,526,676	負債の部	3,008,993
有形固定資産	15,022,913	固定負債	2,016,618
その他の固定資産	503,764	流動負債	992,375
流動資産	2,824,650	基本金の部	16,636,663
		消費収支差額の部	△ 1,294,330
合計	18,351,326	合計	18,351,326



今年の第十九回千葉経済大学祭のテーマは、「COLORS」創造です。このテーマは「COLOR」＝色・色彩という、意味に「S」を付ける事により複数形にしました。

意味としては、色々な色が混ざり合うことにより新たな色を創造する。という想いから、学生が集まり新たな大学祭を作り出すという想いを込め、本テーマの「COLORS」創造に決定しました。

企画としては、一日目にはお笑い芸人による「お笑いライブ」・二日目には大道芸人による「パフォーマンス」を予定しております。また本年度は本学一年次生向けに「板垣 英憲」さんをお呼びし、昨年度から始まった一年次の「学科選択」の参考になるような講演会を企画しており、一年生にはこの講演会で自分の学科選択に役立てて頂けたらとても嬉しく思います。

またサブ企画では「おしゃれ仮装した。そして新しい試みとして二日間にも渡るメインイベントを企画しました。



さらに本学を良く知っていただくように、CKU展示も企画しています。近年本学のルールが少しずつ変わり始め、履修方法や学科選択も私達三年生からの入学時から大きく変わりました。それらを踏まえ、現在在籍している学生はもろもろの事、これから本学へ入学希望を予定している方にはより一層本学を知っていただくための良い機会だと思えます。

是非大学祭に来て頂き普段とは違う本学を見ていただき、より一層本学への理解が深まること、できれば、大学祭に関係する者一同とても嬉しく思います。

想コンテストや「宝探し」といった新規企画を行い、他にも毎年好例の「宝くじ・スタンプラリー」も用意しております。そしてステージ企画として毎年好評の吹奏楽部による「演奏会」やダンス部による「ストリートダンス」の発表、軽音楽部による「ライブ」といった日頃の成果を発表する企画もあります。来場者の方には参加型・観客型として楽しんでいただけるように企画をたくさん用意しております。

マナー向上キャンペーン 実施中

学生会執行部委員長 麻生 朋末

本学では、大学で生活するすべての人の健康に、また快適に過ごせる環境作りのために、大学内を分煙とし、喫煙場所以外での喫煙を禁止しています。特に校舎等建物内は禁煙とし、屋外においても学生ホール北側テラスの指定場所のみを喫煙場所としています。

この措置は、受動喫煙による非喫煙者に健康上の問題、吸殻の放置による校内美化の問題、歩行喫煙による他者への被害問題等に対応するためのもので、また、学内を全面禁煙にしないのは、学外等における歩行喫煙などで大学周辺地域での喫煙、吸殻の放置等を防止するために、喫煙場所を確保しています。（学生ハンドブック二〇〇六二十四頁より参照）

以前はOYANNEと図書館前庭が喫煙場所だったので、指定された場所以外での喫煙や吸殻の放置、歩行喫煙などのルールが再三の注意にも関わらず守られず、また、非喫煙者の権利を守るため、昨年十二月より喫煙場所の縮小、移動措置をとるようになりました。これに伴い、学生会執行部では学生に大学内に限らず喫煙マナーを守ることにより喫煙者と非喫煙者がお互いに気持ちよく生活できるように呼びかけ、吸殻やその他のゴミを拾う清掃活動を行っています。

現在では毎月一週間単位で学内の清掃活動を行っており、今後は大学全体でこの活動を断続していく予定です。しかし、マナーの向上は一度や二度の清掃活動で改善するものではありません。清掃活動を根気強く行っていくことも大切ですが、やはり一人一人の心がけによって大きく左右されます。例えば、タバコを吸う人の安全に対する意識やマナーが低い場合、タバコの火が幼児に当たり火傷を負わせるといった事故やタバコによる火災なども起こりえるのです。

自治体や企業でも環境への取り組みが行われており、千葉市では、千葉市に居住・滞在・通勤する者は、空き缶やタバコの吸殻等をみだりに捨ててはならないとする「千葉市空き缶等の散乱の防止に関する条例」があるほどです。私たちは、この活動を通して学生一人一人が大学だけでなく地域の環境にも目を向けるようになってほしいと思います。

人事異動

- 退職（八月三十一日付）
 - ・中東 雅樹 専任講師（日本経済論など担当）
- 採用（九月一日付）
 - ・小池 順子 助教授（教育原理など担当）
- 退職（六月三十日付）
 - ・寺沢 白雄 就職課長心得
- 採用（七月一日付）
 - ・藤本 重樹 就職課長（現キャリアセンター室長）
 - ・奥 三恵 庶務課嘱託
 - ・渡邊 直子 庶務課本部会計課
- 配置換え（七月一日付）
 - ・渡邊 直子